

Jūn zǐ yì yǒu qióng hū
君子亦有窮乎？
 またきゆう
君子も亦窮すること有るか

桜美林大学名誉教授 植田 渥 雄



魯の君主定公は即位後、頻発する内紛を抑えるため、孔子の意見によく耳を傾け、最終的には孔子を宰相格の大司寇（刑務長官）に取り立て、重要な政務を委ねました。その結果、国防も完備し、内政も格段に安定しました。孔子の執政下で魯が強大になることを恐れた隣国の齊は、孔子と定公を引き離すために女楽（美女歌舞団）を送り込んできました。かつて魯国で実権を握っていた貴族の季桓子もこれに同調して斉国の陰謀に加担し、孔子に無断で女楽を受け入れました。その結果、定公は政治を投げ出して日夜遊興に耽るようになり、魯国は再び混乱状態に陥りました。これに絶望した孔子は官位を棄て、新しい君主を求め、弟子たちを引き連れて諸国周遊の旅に出ます。孔子55歳の時のことでした。

しかし、この旅は苦難の連続でした。時は春秋時代、各国が覇権を争っていた時代のことです。政治や軍事に関する孔子の手腕に期待する君主はいても、為政者に高度な道徳性を求める孔子の理想を素直に受け入れる君主はいませんでした。そればかりか、生命の危険にさらされることも屡々でした。中でも苦難を極めたのは衛を出た後、陳から蔡を経て楚の地へ向かう道中でのことでした。折りしも陳国は内乱の真ただ中で、この煽りを受けた孔子一行は糧食を絶たれ、飢餓に苦しみました。多くの弟子たちは立つことさえできなくなりました。しかもこの状態は7日間も続いたということです。まさに万事休すの状態です。

この時、子路が孔子に対して発したのが表題の言葉「君子も亦窮すること有るか」です。『論語』には次のように記されています。

「在陈绝粮。从者病莫能兴。子路愠见曰：『君子

亦有窮乎？』(Zài chén jué liáng。Cóng zhě bìng mò néng xīng。Zǐ lù yùn jiàn yuē：『Jūn zǐ yì yǒu qióng hū？』)」(陳に在りて糧を絶つ。従者病みて能く興つ莫し。子路愠み見て曰く「君子も亦窮すること有るか」と)〈衛霊公第十五〉。生命の危機に瀕しながらも孔子は特に慌てる様子もなく、平然としていました。「五十にして天命を知る」とはこのことをいうのでしょうか。一方、子路はというと、敬愛してやまない恩師の身の上に万一のことが起こったらどうしよう。自分の命以上に孔子のことを気遣っていた子路は、この有り様を見るにつけ気が急ぐばかりです。そこでつい恨み言を口に出してしまいました。「君子でも窮することがあるのですか」と。これは愛弟子の気持ちも知らぬげに平然と構えている孔子への、精一杯の皮肉でもありました。これに対して孔子は次のように答えました。

「君子固窮。小人穷斯滥矣 (Jūn zǐ gù qióng。Xiǎo rén qióng sī làn yǐ)」(君子固より窮す。小人窮すれば斯に濫る)。君子だってむろん窮することはあるさ。ただ小人が窮すると、とかく取り乱すものだな、と。子路に限らず、たいていの人は困難に出くわすと慌てふためくものです。これは小人たる者の性であるといってもいいでしょう。しかし君子、つまりリーダーたる者はそうであってはならない。リーダーが取り乱せば組織はもたない。「窮すれば通ず」(『易』繫辞伝下) という格言も孔子の時代にはすでにあつたようです。孔子がこの窮状を逆手にとって子路に伝えたかったのは、リーダーとしての心得、いわば孔子一門の帝王学であつたのかもしれませんが。

(わりりい「中国語で読む漢詩の会」講師)